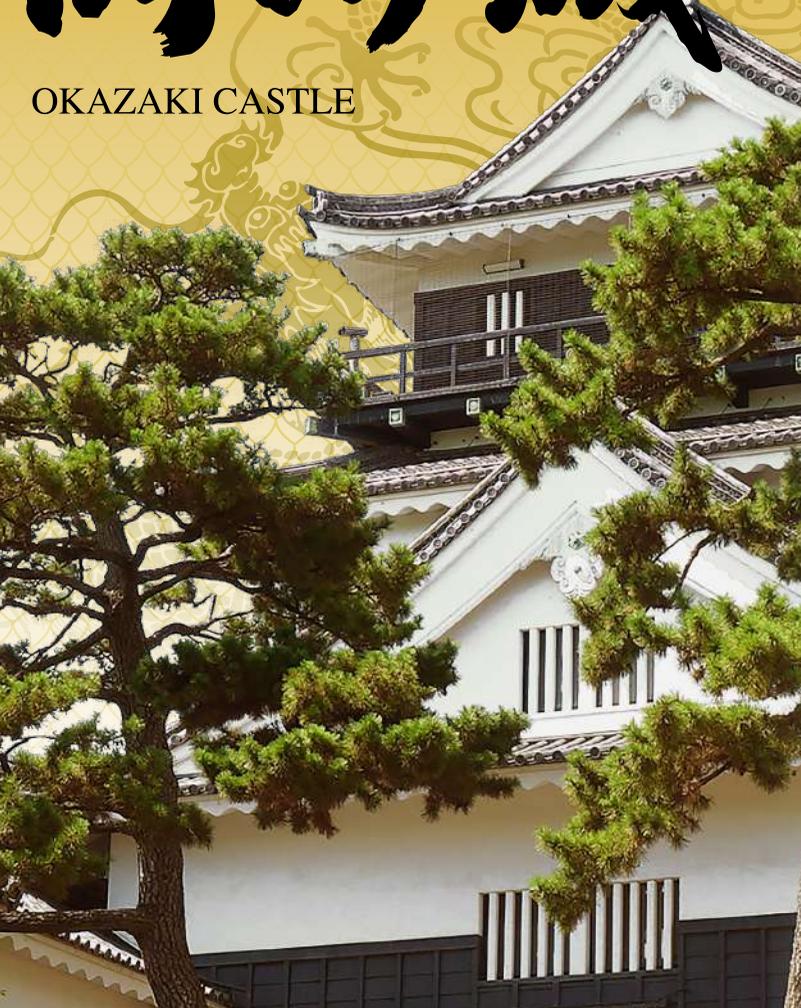


神君出生の城 岡崎城

OKAZAKI CASTLE



神君出生の城 岡崎城

別名 龍城・龍ヶ城
種別 平山城
築城者 西郷頼嗣(頼頼)
築城年 享徳元年(1452)～
康正元年(1455)
構造 鉄筋コンクリート3層5階
(昭和34年復興天守)

岡崎城の沿革

岡崎城の起源は15世紀中頃までさかのぼる。明大寺の地に西郷頼嗣(頼頼)によって築城されたのがそのはじまりである。その後、享禄4年(1531)に松平清康(家康の祖父)が龍頭山と呼ばれた現在の位置に移して以来、ここが岡崎城と称されるようになった。

天文11年(1542)12月26日、徳川家康は、ここ岡崎城内で誕生した。家康は、6歳で織田信秀(信長の父)、8歳で今川義元の人質となり、少年期を他国で過ごしたが、永禄3年(1560)の桶狭間の合戦で、今川義元が戦死したことを契機に自立した。ときに19歳。以来、岡崎城を拠点に天下統一という偉業への基礎を固めた。

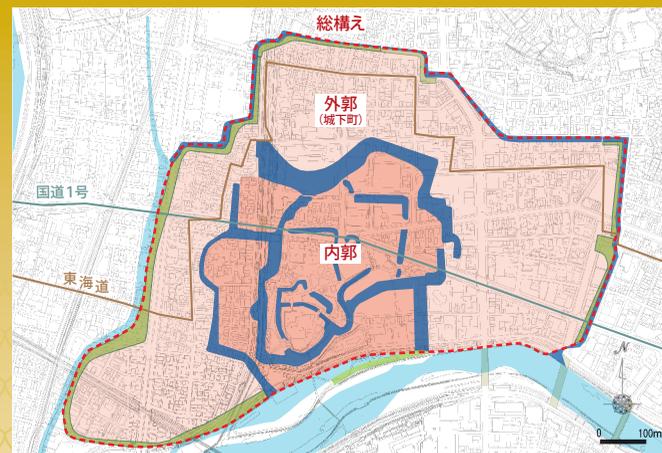
元亀元年(1570)、家康は本拠を遠江浜松(静岡県浜松市)に移し、嫡男信康を岡崎城主とした。天正7年(1579)に信康が自刃したあとは、重臣の石川数正、ついで本多重次を城代とした。天正18年(1590)に家康が秀吉によって関東に移されると、秀吉の家臣田中吉政が城主となり、城下町を堀で囲み総構えとした。家康が江戸に幕府を開いてからは、譜代大名にここを守らせた。

江戸時代、岡崎城は「神君出生の城」として神聖視され、本多氏(広孝系統)、水野氏、松平(松井)氏、本多氏(忠勝系統)と、家格の高い譜代大名が城主となった。石高こそ5万石前後と少なかったが、大名は岡崎城主になることを誇りにしたと伝えられる。元和3年(1617)本多康紀のときには、三層三階地下一階で、東に井戸櫓、南に附櫓をもつ複合天守に再建された。

明治維新を迎えると情勢は変わり、新しい時代には不要とされた城郭の大部分は明治6～7年(1873～74)にかけて取り壊されてしまった。

このあとは、堀と石垣が昔日の面影をわずかに伝えるばかりであったが、岡崎の象徴である天守がないままではしのびないとする市民の思いは強く、昭和34年(1959)に、ほぼ昔どおりの外観の天守が復興された。いにしえ、東海道を往来する旅人が仰ぎ見たであろうその姿を、今我々も眺めることができる。

総構え



総構えとは、城郭主要部の内郭および街道で結ばれる城下町を含む外郭と合わせた城郭構造のことをいう。田中吉政は天守創建や主要地点の石垣化などの他、岡崎城に「田中堀」と呼ばれる総堀を構築した。東側は谷地形、西側は河川などを利用して整備し、北側は台地上に堀を開削して総堀とした。岡崎城の総構えは、東西約1.5km南北約1kmに及ぶ広範囲なものである。

歴代岡崎城主(城主期間)

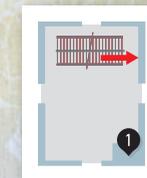
西郷頼嗣 松平光重 松平信貞 松平清康 松平広忠	(頼頼) (西郷信貞)	水野忠春 水野忠盈 水野忠之 水野忠輝 水野忠辰	1676～1692 1692～1699 1699～1730 1730～1737 1737～1752
—— 今川氏城代 ——		水野忠任 松平康福	1752～1762 1762～1769
徳川家康 松平信康		本多忠肅 本多忠典 本多忠顕 本多忠考 本多忠民 本多忠直	1560～1570 1570～1579 1769～1777 1777～1790 1790～1821 1821～1835 1835～1869 1869～1871
—— 徳川氏城代 ——		—— 鹿藩置県 ——	
田中吉政 本多康重 本多康紀 本多忠利 本多利長 水野忠善	1590～1600 1601～1611 1611～1623 1623～1645 1645 承すぐ移封 1645～1676		

5F 展望室 天守からの眺め

最上階からは、徳川家康を育んだ三河の山河や岡崎城下が望めます。岡崎城下まち歩きのご案内コーナーもあります。



① 岡崎城下町あんないじよ

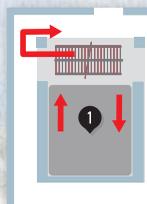


4F 岡崎城シアター

岡崎城総構えを歩くと、江戸時代の城下町の映像が現れタイムスリップ。壁3面+床面に投影された、没入感のある美しい映像と音響が楽しめます。



① 岡崎城シアター

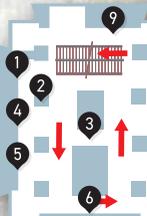


3F 庶民の活気 岡崎城下町

五万石の岡崎城を支えた城下町のくらしと文化を紹介。現代に技術を伝える石工、八丁味噌、花火などの伝統産業に関する資料を展示。



- 庶民の活気 岡崎城下町
- 岡崎の伝統産業
- 岡崎にぎわいジオラマ解説
- 岡崎城下の街道と舟運
- 土場と宿場
- 城下町の繁栄
- 岡崎城下の寺社
- 岡崎の祭り
- 岡崎城の被災と近代化

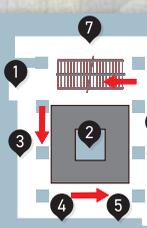


2F 家康が生まれた城 岡崎城

岡崎城の成り立ちと造りを紹介。岡崎城の特徴を城郭模型と城絵図で楽しく学べます。刀剣や発掘調査の出土品も展示。



- 家康が生まれた城 岡崎城
- 岡崎城カタチ発見!
- 岡崎城の成り立ち
- 土造りの城から石垣の城へ
- 藩主住まい、家臣住まい
- 藩主と家臣のくらし
- 三河ゆかりの刀剣



1F 天守台穴蔵と心礎・用材

岡崎城天守を支えた天守台石垣の穴蔵と心礎が、江戸時代の姿を伝えます。(※礎石が現存するのは、岡崎城と姫路城のみ) 城内建物に使われた鯨瓦や用材も展示しています。



- 受付(券売所)
- 岡崎城を支えた心柱の礎石
※心柱は三階まであったと考えられている
- 鯨瓦
- 天守台石垣と穴蔵
- 用材
- 休憩所
- 授乳室



利用の案内

◆入館料

		大人 (中学生以上)	小人 (5歳以上)
岡崎城	一般	300円	150円
	団体(20人以上)	240円	120円
	割引	250円	120円
三河武士のやかた 家康館	一般	400円	200円
	団体(20人以上)	320円	160円
	割引	350円	170円
岡崎城・三河武士の やかた家康館 2館共通	一般	650円	320円
	団体(20人以上)	520円	260円
	割引	550円	270円

岡崎市民 ※高校生以上		
岡崎城	市民割	150円
三河武士のやかた 家康館	市民割	200円

※岡崎市民は、団体割引、2館共通割引なし

以下の方は入場が無料となります。お申し出ください。

5歳未満、身体障がい者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病手帳、被爆者健康手帳、岡崎市避難者支援サービスWithカード所持者、市内に住所のある中学生以下のかた、または65歳以上のかた



- ◆ 駐車場 有料駐車場(詳細はホームページをご確認ください。)
- ◆ 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時半まで)
- ◆ 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- ◆ 所在地 〒444-0052 愛知県岡崎市康生町561-1・岡崎公園内

岡崎城 TEL:(0564)22-2122
FAX:(0564)22-2201

家康館 TEL:(0564)24-2204
FAX:(0564)24-2247

◀ 岡崎公園関連リンク集
<https://lit.link/okazakipark>



ごあいさつ



三河武士のやかた
家康館名誉館長
とくがわ いえひろ
徳川 家康
(徳川宗家19代当主)



- 1 企画展示室1 (特別展示室)
- 2 企画展示室2
- 3 回廊展示コーナー

当館が所蔵する資料や、家康をはじめ三河武士に関連する企画展等を開催します。

徳川家康公がその基礎を築いた江戸時代は、世界史上希な長い内外の平和を実現したこと、そして現代日本文明の原型が出来上がったということで、その重要性がいよいよ認識されるようになっていきます。

ここ「三河武士のやかた家康館」の展示を通じて、戦国乱世を必死で生き抜いて、ついには平和を実現した家康公と、家康公を支えた三河武士団の生の躍動を、そして三河武士団の質実剛健の気風を感じ取っていただければ、真に幸いです。



常設展示室

3 家康の自立と三河平定

桶狭間の戦いで今川義元が戦死すると、家康は岡崎城に戻り、自立します。翌年には今川氏を離れ、織田信長と手を結ぶ決意をします。永禄6年には元康から家康に名を改めます。その後三河一向一揆、三河全土の平定、徳川への改姓を経て、名実ともに戦国大名の確固たる地位を築き上げたのです。ここではその過程について紹介します。

4 織田・豊臣政権下の家康

三河平定後、遠江を制した家康は居城を浜松に移し、武田信玄との抗争に入ります。信玄、信長の死後、甲斐・信濃の計略に成功し、家康は五ヶ国を領国とする大名となりました。その後、羽柴(豊臣)秀吉に臣従しますが、秀吉が亡くなると関ヶ原の戦いに勝利し、天下人の立場を確かなものとししました。ここではその過程を紹介し、またジオラマシアターにて、関ヶ原の戦いを再現します。

家康が語る 決戦! 関ヶ原

これまでも人気のあったジオラマシアターを、家康が語るストーリーに刷新しました。家康をより身近に感じていただくとともに、ダイナミックな映像とプロジェクションマッピングを用いた迫力のある演出で、合戦の流れをわかりやすくご覧いただけます。

2 家康の出生から駿府在住時代

家康は松平広忠の嫡男として岡崎城で生まれ、竹千代と名付けられました。家康は6歳から19歳までの12年間、織田氏と今川氏のもとで暮らすことになりました。松平領はその枠組みを残しつつ、今川氏の領国に組み込まれました。ここでは松平氏にとって激動の時代であった家康の幼少期について紹介します。

1 松平氏と譜代家臣の形成

徳川家康の祖・松平一族は、賀茂郡松平郷の松平親氏を初代とします。ここでは親氏から家康の祖父である清康までの人物像と、三河譜代について紹介します。



6 人間家康と神君家康

家康の一生は武勇のみならず、活字印刷の出版事業や平和外交など為政者としての活動のほか、鷹狩り、健康への指向など個人趣味まで、様々なことで彩られています。これからは家康の人となりを知ることができます。家康は死後、神格化され東照大権現として東照宮に祀られます。ここでは「人間家康」と「神君家康」それぞれの一面をご覧いただけます。



徳川家康画像(部分) 岡崎市長

体験コーナー

火縄銃や長槍などの模型を設置し実際に取り重さを体感できます。また、兜の模型をかぶっての記念撮影もしていただけます。

7 家康の人となり - その伝承と実像

家康の生誕地であり、青壮年期を過ごした岡崎には、家康にまつわる逸話や伝承が多く残っています。また、浜松・駿府に移ってから亡くなるまでの人となりを伝える説話集や言行録が、江戸時代を通じて数多く編纂されました。これらは、教訓的・通俗的なものも多いのですが、私たちの想像する家康像はそれらから作り上げられた部分が大きいのです。ここではその一部を紹介します。

金陀美具足(複製)



天下を取らせた三河の風土

源頼朝、足利尊氏、徳川家康、と三河に深い関係を持つ3人が、相次いで武家政権を樹立しました。ここでは「天下を取らせた三河の風土」を、家康の活動とともにご覧いただけます。